

◆地域活動

魚類養殖指導（八重山地区）

八重山農林水産振興センター 長濱秀紀

1. 目的

石垣市では平成 10 年からヤイトハタの海面養殖が営まれており、現在では県内一の生産量を誇る生産地となっている。一方で、例年疾病（主に寄生虫症）等による斃死も発生している。

そのため、魚類養殖生産者に対し、水産海洋技術センター、栽培漁業センター、水産課と連携して、種苗配布、疾病対策、その他飼育管理について現場指導及び調整を行った。

2. 活動内容

（1）種苗生産状況説明会（7月12日）

ヤイトハタおよびチャイロマルハタ種苗の生産状況を報告するため、栽培漁業センター、水産海洋技術センター、水産課担当者とともに種苗生産状況説明会を開催した。

栽培漁業センター玉城所長から種苗生産状況および生産不調理由（VNN が原因と思われる斃死）について説明があった。当面の対応策として、水産海洋技術センター石垣支所での種苗生産について説明があった。

（2）栽培漁業センター見学（7月19日）

種苗生産不調を受けて、魚類養殖部会員である池田元氏から栽培漁業センターの見学希望があったため、見学に同行した。

栽培漁業センターでは平手副所長による案内のもと生産状況等を確認した。

（3）ヤイトハタ養殖勉強会（8月8日）

生産者間の情報交換および水産海洋技術センターによる研究情報提供のため、ヤイトハタ養

殖勉強会を開催した。

水産海洋技術センター石垣支所の山内研究員から、県産魚粉を使用したモイストペレット実証試験の中間報告があり、配合飼料（EP）と比べたコスト減少や、成長への効果が報告された。あわせてモイストペレット育成魚の試食会を行った。

また、池田元氏が取り組んでいる、サメ等による生簀網破損被害対策のための二重生簀網について情報提供を行った。

（4）ヤイトハタ種苗配布説明会（9月11日）

7月に採卵したヤイトハタ種苗の生産状況を説明し、八重山生産者分は水産海洋技術センター石垣支所から9月中旬以降に順次配布する旨を説明した。

（5）ヤイトハタ種苗配布（9月～1月）

例年の栽培漁業センターからの種苗配布では養殖場や中間育成施設まで配送業者により活魚タンクが輸送されるが、水産海洋技術センター石垣支所での種苗配布においては生産者各自による石垣支所での種苗受取となった。石垣支所での種苗配布は、種苗生産業務が栽培漁業センターに一本化される前年の平成 24 年以来となるため、種苗配布に同行した。

9月16日に35、40mm 要望の生産者への配布に始まり、翌年1月10日までに12名の生産者へ種苗が配布された。

（6）疾病対策指導

種苗導入後の寄生虫症対策を中心に、養殖場や中間育成施設での飼育管理指導を行った。

エラムシ寄生についてはカテキン浴を指導し、初めてカテキン浴を行う生産者については一緒に作業を行った。

ビブリオ、スクーチカ、滑走細菌によると思われる体表のスレ等の発生時には、OTC 投薬や銅イオン発生装置の設置を指導した。

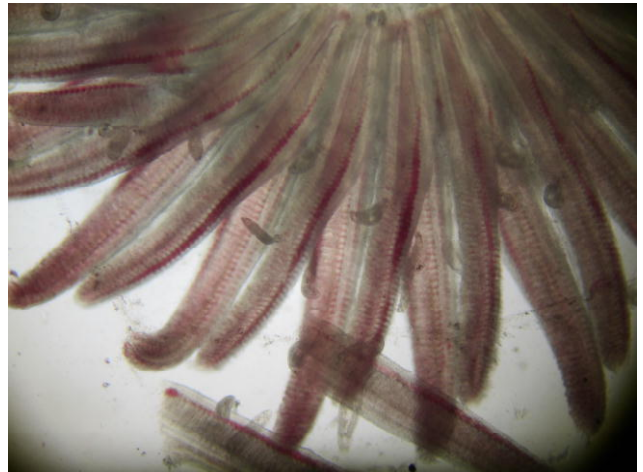
(7) 第2回ヤイトハタ養殖勉強会 (3月29日)

平成30年1月から運用が開始された、水産用抗菌剤取り扱いに関する制度および水産用医薬品使用記録について説明を行った。あわせて、ヤイトハタ養殖で特に使用される OTC の投薬について用法用量および投薬量の計算方法について指導した。

また水産海洋技術センター石垣支所の山内研究員からは、県産魚粉使用モイストペレット試験について、試食アンケート結果などの試験成果についての発表があった。



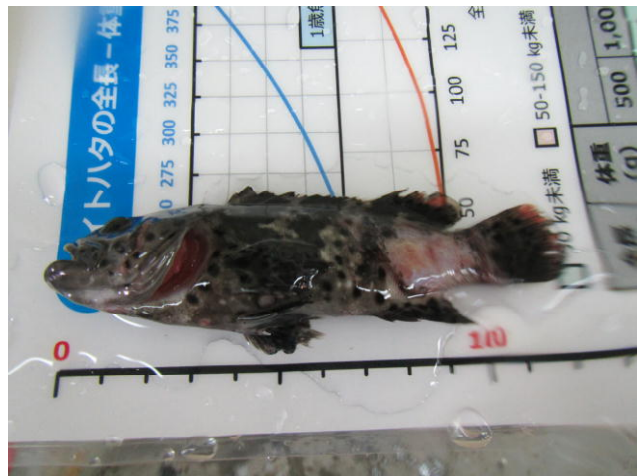
7月19日 栽培漁業センター見学



エラムシが寄生したヤイトハタ種苗の鰓



7月12日 種苗生産状況説明会



体表のスレが発生したヤイトハタ